

インタラクティブ型講義で学ぶ 「科学技術の失敗とどう向き合うか」

科学技術の失敗とどのように向き合い、乗り越えていくか

科学技術の歴史は失敗の克服の歴史でもあります。失敗から真摯に学ぶことが工学の発展、技術の展開の大きな原動力となってきました。ただし、科学技術の失敗からの学びには気をつけるべき点があります。それらを見落としたまま表面的な対処を行っても、同型の失敗を繰り返したり、失敗から十分に教訓を得ることができなかつたりします。

本コースでは、技術者はもちろん、企業で科学技術に関する研究開発、企画、製造、営業、広報・宣伝、管理・経営など様々な側面に関わる実務家を対象に、「科学技術の失敗から学ぶ」上で知っておくべき事柄を、工学と社会科学にまたがる様々なアプローチから学際的に取り上げ、いよいよ複雑化する現代社会で技術を通じた社会貢献を続けるための要諦を学びます。

学習時間

合計 約 **12** 時間

対象者

入門
レベル**初級**
レベル**中級**
レベル発展
レベル

開催場所

貴社指定場所
(応相談)

講師プロフィール



寿楽 浩太

東京電機大学教養教育センター
人文・社会系 教授

2008年、東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得退学。2011年、東京大学博士（学際情報学）学位取得。2008年、東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻特任助教。2012年、東京電機大学未来科学部人間科学系列助教。2017年、同工学部人間科学系列准教授。2020年より現職。2019年より国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター（CRDS）フェロー（非常勤）。

専門は科学技術社会学。原子力技術と社会の間で生じる諸課題を研究。また、広く工学と社会の接点に係る教育・研究に従事。

＼ 講師についてもっと詳しく /
<https://researchmap.jp/kjuraku>



特徴 1



文理をまたぐ学際的な内容

工学と社会科学双方の知見や考え方を科学技術の実務の現場に結びつけます

特徴 2



インタラクティブ型講義

講師とのディスカッションや受講者間のグループワークを大きく取り入れます

特徴 3



プログラムの部分開講も可能

プログラムに示されている内容のうち一部のトピックのみの開講も可能です

特徴 4



CSR研修としても適用可能

倫理や組織文化、社会的責任についての内容も含み、CSR研修としても有効です

プログラム

1. なぜ科学技術の失敗から学ぶのか		
(1)	「失敗は成功の母」	
(2)	タコマ橋とジェット機コメット：工学におけるサクセスストーリー	
(3)	「失敗学」の取り組み	
2. 現代の「失敗からの学び」のジレンマ		
(1)	コンピュータによる自動化と高度複雑システム	
(2)	2つの航空機事故と「失敗からの学び」	
(3)	「あちらを立てればこちらが立たず」	
3. 「宿命」としての科学技術の失敗		
(1)	スリーマイル島原発事故の「原因」は何か	
(2)	定常事故論：宿命としての事故	
(3)	「対策」は意味を持つのか	
4. 組織の性質と科学技術の失敗		
(1)	何がチャレンジャー号の悲劇を生んだのか	
(2)	逸脱の常態化：よい人たちが導く失敗	
(3)	倫理で防げることと防げないこと	
5. 失敗の被害と向き合うために		
(1)	取り返しのつかない被害と失敗からの学び	
(2)	事故調査をめぐる葛藤	
(3)	2.5人称の視点と前向きな説明責任	
6. 想定外への備えをどうするか		
(1)	3.11複合災害を考える：未曾有と想定外	
(2)	レジリエンスの視点とその生かし方	
(3)	システミック・リスクの時代をどう乗り越えるか	

本講義内容・時間はご提案です。

実際には、ご希望をうかがった上で、内容や時間など御社に最適なプログラムとなるようカスタマイズいたします。

ご質問・お申し込みは、お気軽に担当者または右記窓口までご連絡ください。

お問い合わせ窓口

東京電機大学 リスキリング事務局

Eメール：information-tdudtec@jim.dendai.ac.jp

電話：03-5284-5202（学長室内）

（3営業日を目安にご連絡いたします）